

# シルバー さんむ

## 第3号

### 平成25年1月

公益社団法人

山武市シルバー人材センター

〒 289-1514 山武市松尾町松尾47-3

☎ 0479-86-6616

FAX 0479-80-8280

メール sammu@sjc.ne.jp



12月7日・8日参加者45名で水上温泉へ親睦旅行に行きました。この写真は群馬県太田市の『冠稲荷神社』で撮影しました。冠稲荷神社は、平安時代の天治2年（1125年）、新田氏の始祖新田義重公の父、源義国公創建と伝えられ、伏見、豊川、信田、王子、妻恋、田沼と合わせ、日本七社のひとつとされています。



# 新年明けまして

おめでとございませう



会長 星久木 義雄

皆様にはお健やかに新春を

お迎えのこととお慶び申し上げます。

山武市シルバー人材センターも、昨年四月より、公益社団法人に移行しての運営となりました。また業務体制の変更もありましたが、会員皆様のご理解とご協力により体制が整えられ、業務が着実に推進されておりますことに感謝申し上げます。

当シルバー人材センターの事業の発展には、取り巻く環境の変化に対応しながら「自主、自立、共働、共助」の理念に基づき、設置されている各専門委員会、地域班、職群班等の機能を活用し、会員参画のもと組織の活性化、合理化を図る必要があると思われまふ。

地域に貢献し、充実感を持てる会員組織を目指し、常に前向きな姿勢を貫いて取り組んでまいりませう。

会員皆様の健康と安全第一での就業を祈念申し上げます。

☆ ☆ ☆

## 第五回会員作品展示会について

広報委員

十月十一日から十三日までの三日間、「成東のぎくプラザホール」を会場にシルバー会員による作品展示会が開催されました。

出展作品は四部門(書道・文芸、写真、絵画、手工芸)で三十二人、五十四作品、一〇六出品点数を数え、大好評のうちに終了いたしました。特に、プロ級の写真、大震災の爪痕の写真、花五作品の油絵、我が家の献立の彫刻看板等々、レベルの高い作品が展示されました。(裏表紙参照)

会員はじめ百三十人ほどの市民が来場され、シルバーセンターのPRに役立ちました。また、会場の設営、受付案内に広報委員、会員有志の皆さんにもご協力をいただきました。もちろん、出展いただきました会員の皆様のみならず、ご精進を祈り、会場をあとにしました。

☆ ☆ ☆

## 山武市健康福祉まつりに参加して

職員 高林千代美

十月二十一日第七回山武市健康福祉まつりが開催され、ボランティア会員の皆さんと職員で参加しました。

地域の方々にシルバー事業のPRを目的としてチラシとティッシュを配布しました。バザーは、皆さんから多くの品物

を提供していただき来場者の方に大盛況でした。会員さんのご協力で多くの方々にはシルバー人材センターの宣伝ができました。

福祉まつり模様と参加者



## 後期安全講習に参加して

成東地区 布施 孝

山武市シルバー人材センター主催による、後期安全講習会が平成二十四年十月二十六日松尾ふれあい館(多目的ホール)で開催され四十三名が受講しました。

振り込め詐欺の替え歌と足もみ健康法では、ボランティアサークルどんぐりの宮崎昭好先生による振り込め詐欺の替え歌で注意の呼びかけ。また、足もみ健康法は足の裏には六百五十七ヶ所のツボがあり、そこをマッサージすることにより血流が良くなり、健康になっていくとの事で数名の方が実際にマッサージ

をしてもらい気持ちがよくなったとの事でありました。

次に、山武郡市広域行政組合東消防署員による応急処置とAEDの取扱いについての実演と講習では、七、八名で班を作り、実際に一人ずつ手順を教わりながら応急処置の仕方やAEDの使い方を習いました。実際にやってみて、細かい事など少しわからないこともありましたが、AEDを取り扱う手順はわかりました。ただ、その状況に立った時、果たして実行できるか少し心配です。

会員の皆様におかれましても、都合がつかう場合には安全講習会に参加されまして、少しでも親睦を図ると共に勉強されますようお願いいたします。



### 女性懇談会に参加して

職員 川畑 桂子

シルバー人材センターに勤務して2年目。昨年は松尾事務所で松尾地区の会員さんとの交流が主でしたが、この四月から事務所が一つになり女性会員の皆さんがシルバー

で働きやすい環境を作っていく為に、会員の皆さんと事務所が意見交換や更に交流を深めるための場として女性部会が発足されました。

九月に地区ごとに女性会員懇談会を開き、会員の皆さんと仕事の事や日常の何気ないお話をさせていただきました。短い時間ではありましたが楽しい時間を過ごさせていただきました。まだまだ力不足ですが、同じ働く女性としてより楽しい場を作れるよう、日々皆さんの声に耳を傾けていきたいと思っております。



### 山武地区社協バザーに参加して

十一月三日、毎年恒例の山武地区社協バザーに風が冷たく曇天の中にも関わらず二十名の山武地区会員の方々の協力により、ポップコーンとわたがしの販売を行いました。毎年参加しているの、会員さんの手つきも慣れたもの、綿菓子は一「こんなに大きいの！」と子供たちに驚かれ、醤油バター味のポップコーンは大人の方々にも喜ばれ、まとめ買いで購入していただけでした。準備から後片付け後片付けまでを全員で行い、不足し

いる物品を会員さんが用意してくれたり・作る人・販売する人・呼び込む人・チラシを配る人・お金を扱う人と自主的に会員さんが各自で動く姿は、まさにシルバーの「自主・自立・共働・共助」の実践でありました。これからも、地域の皆様に密着した愛されるシルバーでありたいと思っております。



### 役員視察研修について

監事 新田 博

平成二十四年八月二十八日に役員視察研修に会長、副会長及び理事、監事にて東金市シルバー人材センターと佐倉市シルバー人材センターへ視察研修に行きました。目的は  
①役員の役割について学ぶ  
②効率的な役員の組織活動について学ぶ  
事でした。  
午前中に訪問した東金シルバー人材センターさんも、山武市と同様に今年度より



公益社団法人への移行を済ませました。佐藤勇次会長の挨拶に始まり、続いて須藤事務局長さんより事業概要と事業運営についてと役員組織活動等の説明がありました。

東金シルバー人材センターは、役員さんはじめ会員さん達のボランティア精神の旺盛な事に驚きました。皆さんボランティアで頑張っています。私たちも理事として、また会員としても見習うべきことがたくさんあることを実感しました。

午後は佐倉市シルバー人材センターへお邪魔しました。田中千俊副会長の挨拶から始まり、当方は星久木会長から順次自己紹介し、続いて田中豊嗣事務局長、理事、監事、職員さん達の自己紹介を受けました。佐倉市シルバー人材センターは今年度設立三十周年を迎えられました。

研修事項は

①公益社団法人 佐倉市シルバー人材センターについて

②役員組織活動について

③その他、

の項目について開催されました。

佐倉市さんは、人口も十七万人を超え会員数も約千二百人と、山武市と比較して大きな町であり、会員数も多いです。

事業実績も総売上約五億六千万円（我々センターの三、四倍強）売上高の多いのにビックリしました。しかし、何も驚くことはありません、会員数の違いです。

我々のセンターも平成二十四年度通常総会の資料によれば、一人の売上高は佐倉シルバー人材センターと大差ありません。その他、シルバー人材センターの概要について田中豊嗣事務局長より説明がありました。続いて、役員の役割及び組織活動について

て理事活動委員会等設置規定、三役委員長の会議の所掌事項、理事活動委員会の所掌事項、地域班・配置構成図等の説明もありました。

活発な質疑応答で予定の時間を大幅な時間延長となりました。

同規模の東金市、大規模な佐倉市双方より学びえたことから、我々山武市の今後の活動において役立てていきたいと思われました。初めての視察研修でしたが、今後の役員活動を進めていくに当たり、大変有意義な一日となりました。



## 自己紹介と就業の様子



副会長 樋口 勝利

平成二十四年度より副会長を務めさせていただきます。樋口でございます。

私は、六十八歳で現役（経理・財務等事務系の仕事）を引退し、平成十八年四月に妻と二人、横浜から成東町井之内に転居してまいりました。

当センターには同年六月に入会いたしました。当初は、海の家駐車場管理、草取り、草刈の片付け、工場の軽作業等の力仕事はほとんどで、事務系の仕事一筋の私にはたしてできるのかわりと不安でしたが、諸先輩方のご指導で無事に仕事をこなす事ができるようになりました。

現在は、平成二十年一月より（一月から五月までのシーズン中五ヶ月間）某葎園の「イチゴ狩りの案内」の仕事をもう一人の会員と一日おきで就業をしています。仕事をさせていただけるのは、発注者と会員との信頼関係が確立できているからなのではないでしょうか。

私は、常日ごろ、仕事ができることの喜びと、発注者への感謝の気持ちが大切だと思っております。また、発注者から「ありがとう、また次も、また来年も」の声がかげられるような会員が増えることを願っております。

当センター（全国的にも）の年間契約金額は年々減少傾向にあります。この十月から新規事業開拓委員会を設け、会員増、顧客獲得増等の取り組みを始めましたが、これらの仕事は事務局、各委員、理事任せではなく、会員一人一人が一致団結して取り組むことが肝要と思えます。

# ジュエリーとの出会い

業務係 塩崎照夫

私が入社六年目の時上司から「当社で貴金属を取り扱う。君が担当に。」正に寝耳に水とはこの事か。宝石の知識は皆無に等しく手に触れた事さえありませんでした。その後は悪戦苦闘、七転八起のチャレンジの始まり、約三十五年間宝飾に携わり、アドバイザーとして販売に従事してきた話をさせていただきます。宝石の条件とはまず美しく希少価値があり耐久性に富むと言われ、永遠の輝きを保つダイヤモンドの良し悪しは「4C」と言われています。まず、①カラット（1カラットは0.2g）②カット③カラー（無色透明、色のついたファンシーカラーは高価）④クラリティ（透明度を表し内包物が少ないもの）を鑑定し価格が決まります。ダイヤモンドは、日本で発見されていません。炭素の塊で地球上で一番硬い物質で鉄や石を切断するが衝撃に弱く、テーパーの角や物にぶつけると割れたりカケたりする可能性もあります。油脂が苦手です汚れたら中性洗剤で洗い乾かすと美しい光沢が甦ります。

世界の五大宝石とは、①ダイヤモンド②エメラルド③ルビー④サファイヤ⑤パール（真珠）で、真珠は①光沢（照り）があり②大きく（巻き）③真円（丸くいびつが無いもの）な品が良品とされ、色はピンクが高価で日本人の肌合い、他の色としては白・黄・青・黒・金・銀色があります。養殖真珠王 御木本幸吉氏はアコヤ貝を使って世界中の女性の首に真珠のネックレスをかけることと豪語したそうです。真珠は貝の体内に石ころや微生物が入りこんだ時に我が身を守り、その害を防ぐため自ら分泌する真珠質で包んでしまう。こうして三、四年で生長し出荷されます。夏場汗をかいた時は柔らかい布等で拭いてください。酸に弱く変色の原因となります。



台座（枠）のプラチナは、十九世紀ヨーロッパのカルティエがダイヤモンドの台座に採用したのが始まりで、大戦後工業用の利用価値が高く品薄となり姿を消し「K14WG」（ホワイトゴールド）が主流となった。日本人が大変好まれ貴金属で使用量は世界第1です。Pt<sup>850</sup>900<sup>950</sup>の記号で指輪の内側に表記され、それぞれの割合でプラジュウムを加えています。ゴールド（金）は純金を「K24」や「K18」には金<sup>20</sup>の銅やパラ

ジュウムを加えた比率で赤系、黄系、白系の「K18金」が出来ます。日本は銅が産出されるので赤系が、外国産はニッケル等が安値のため白系が出来るのです。銅は硫黄分に弱いので温泉には金属をつけて入浴はしないよう注意してください。商談のテクニクもロールプレイング（擬似役割体験）で研究を重ねました。顧客の断り文句として「来年までローンがなくなり終えるまで買えない」と言う方には「ローンが終えるまで一日百円貸約貯金し月三千円の支払いでローンが終えれば加算して支払う方法を奥様だけ特別認めますヨ」（不均等払い）特別という言葉には大変弱いようです。また、「高額なので主人に相談してから」に対してはきっぱりと「ご主人に相談する方はほとんどいないようです。宝石は奥様だけの宝ではありません。愛する子や孫の代まで受け継がれる女性の財産です。支払い終わってから「これ買ったの」と見せると、やりくり上手な奥様を見直し褒めてくれますヨ」とねばり強く誠意をもって切り返すトークで攻略し成功を重ねてきました。ホテルで一流歌手を招いた展示会で一人のセールスが私に応援を求めて来ました。六十代の気品ある女性で約五時間のアプローチの末に商談成立！八百万円のアレキサンドライトの指輪を買い求めて頂きました。会場目標三億円もクリアできました。よく売れた時代でした。常に私の勧めが「あの時買ってよかったわ」と感謝され、リピート

オーダ愛好家が増えることを願っていました。女性が美しく飾り、おしゃれをする姿を世の男性は快く思っています。旅行やお出かけの時は、愛着のある宝石を身に付けておしゃれを満喫していただきたいと思えます。機会があれば私の知識内での鑑別も致しますヨ。

# 私とシルバー人材センター

山武地区 秋吉 勝則

私がシルバー人材センターに、お世話になって丁度十年が経ちました。六十歳で会社を定年になり、取り敢えず失業保険の申請や次の職を探しにハローワークに通っていました。六十歳を過ぎた者を募集する会社は全くといって良いほど無い現実を知りました。このままプラプラと残りの人生を送るには、健康のためにも良くないこと、経済的にも趣味のゴルフや釣りができる位の稼ぎができる仕事をしたいと思っていました。

退職後、三ヶ月が経ったころ、町にシルバー人材センターがあると知り私には、定年まで製鉄という硬い物とだけに携わってきた私には、直ちにシルバー人材センターに参加するには、自信がありませんでした。そんな時、ハローワークで芝山町にあった高等技術専門学校で、造園科の募集の貼り紙をみて早速、受験の申込みをしました。六倍ぐらいの競争率でしたが幸いにも合格し、半年間でしたが、五十年ぶりの学校生活は新鮮で充実した楽しい日々でした。七人の仲間（級友）は、県内の各方面から来た人達で、三十代から六十代と年齢もバラバラでしたがすぐに仲良くなりました。この仲間とは、今でも年一回のOB会を開いて懇親と情報交換を行っています。学校の授業は、造園科ということで庭造りに関することが主体で、庭石の配置や敷き方、竹垣の作り方、植栽の仕方や植木の手入れなどについて座学と実習により基礎を習いました。これらの専門的なこと以外に厳しく教えていたことは、道具の手入れと仕事を終えた後の後始末のことでした。道具の手入れが悪いと能率が悪く出来栄もよくないこと、後始末も仕事の出来を左右する重要な点であるとのこと、今も忘れず実践するように心掛けています。学校卒業後は、植木の手入れが出来る一通りの道具を揃え、シルバー人材センターに入会しました。入会して実際にわかったことは学校で教えてもなかったことだけでは仕事は出来ないということ、先輩達に教えてもらったり、市販の専門書を買って勉強したりして、なんとか一人前の植木職人に近づいた気がします。最後に、山武市シルバー人材センターの一員として、皆さんと一緒にセンターを盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。





今秋も恒例のシルバー人材センターの作品展が、ぎくプラザで催された。毎年感じるのだが、会員も一般の人も展示会には、あまり関心を持たないようなのが残念に思う。昨年はマツタケ、今年は看板の値段表と目玉作品はあつたのにな。

さて、ぼやきはこの辺で小生出品のヒマワリの花の絵が縁あつて主催者のシルバー人材センター事務へ嫁入りすることができた。事務所なら小生宅の物置で眠っているよりも花ちゃんも喜んでくれることを信じていた。何点か出展した他の花達が、「あんたはヒマワリ婆さんなのによく貰い手があつたわね」などと言い嫉妬している。私の方が若いし美しいのにと若い花は言う、「貰う方もシルバーだもの、つり合いが良いと思つたのよ。きつと！」だと。



絵も人目に触れることを望んでいるのだが、なかなか機会がないのが現実だ。

また、東京の銀座で個展でもやるか、絵は描くと置き場に困る、ゴミの山に埋もれて死にたくもないし、不出来なもの燃やしてしまえと決断するが、なかなかそれも忍びなく心が揺れる、処分も必要であり処分してはまた描く。描いている時は無心になれるから。それが至福の時間だと思つている。また、目標もある。シルバーの展示会に出展するため、絵の仲間がいるから続けられる。シルバーの業務係を退職前から不応な広い畑を借り、無農薬野菜を作ると豪語して張り切つてやつていたが、良いものは作れない。畑仕事は雑草と害虫との戦いだったが、ついに虫に敗れた。でも、虫を一匹ずつ手でつまんでペットボトルに入れる、何匹も何百匹も……。これも無心の境地になる。禅の世界だ。でも私の人生ってなんと淋しい悲しいものか、あまりにも淋し過ぎる。こんな時に

絵でも描くかと筆を執つてみるが、絵は心の鏡だ、淋しい絵になつてしまう。また、加齢も原因で絵が委縮してしまうようである。生きた絵を描きたい。もう百姓はやめた、あと俺の残り寿命は何年だ？せいぜい三、四年だろう。こんな事をやつていいる時ではないよな。もつと面白く楽しい人生がある筈だ。楽しい遊びを探そう。そして、実行だ。なつ、みんなそうだろう

## 地名の雑学 広報8号続き

山武地区 新田 博

### ◎数字地名の変つた読み方

数字は数を数える語であり、順番を示す語でもある。しかし地名に用いられる和数字は、数や順番を示すものだけでなく、ことばの音として表記される当て字が多い。従つて読み方も単純でなくあつと驚くような読み方もあつて面白い。これらの和数字地名を数字ごとに取り上げ、いく通りもある読み方の違いを明らかにしてみよう。

### ●一桁数字地名のさまざまな読み方

一から九までの数字は、  
 字音は「イチ・ニ・サン・・・」と読む。  
 字訓では「ひとつ・ふたつ・みつ・・・」と「ひ・ふう・み・・・」という言い方もある。  
 このように各数字には最低三つの読み方がある。これに他の音や訓が加わるので、すくなくとも四つから五つの読み方がある。このことをわきまえて読まない和数字地名を正確に読むことができ

●次に一から九までの各数字の読み方を( )の中へ示し、それぞれに該当する地名をあげてみる(音は片仮名、訓は平仮名で示す)

一(イチ・イツ・ひとつ・ひと・ひい・かず)  
 「一宮」の地名は「イチノミヤ」と読むが、高知県の一宮は「イツク」と読む。宮城県の一迫町は「イチハサマチよう」と読む。「一木」の地名は「ヒトツキ」と読む。「一日市」と書く地名は月の一日(ついたち)に市が開かれていた所の地名であるが「ヒトイチ」と読む。奈良県の橿原市内「一町」は「カズチヨウ」と読む。  
 一は数の代表であるから「かず」とも読む。

二(ニ・ジ・ふた・ふう・ふつ)  
 福島県の二本松市は素直に(ニホンマツ)と音読でいいが、三重県の二見町は(フタミちよう)と訓読になる。月の二の日に定期的に開かれていた所の地名である「二日町」は「フツカマチ」と読むが熊本県人吉市の二日町は(ニノマチ)と読む。「二子」の地名は「ふたご」、「二葉」の地名は「フタバ」と読む。

三(サン・み・みつ・みつつ・みい・さぶ)  
 数字地名には三と八の付く地名が多い。とりわけ自治体名には三の付く地名が数十はある。その代表格が「三和」で「サンワ」と呼ぶ町名が三つ、「ミワ」と呼ぶ町が二つ、合計五つもある。小地名まで入れると、ざつと三十余ある。この他三田(サンダ・ミタ)、三郷(サンゴウ・ミサト)、三原(ミハラ)、三島(ミシマ)と書く地名が目立つて多い。すでにおわかりのように「三」は「み」とよむ場合が最も多く、「さん」がこれに次ぐ。しかし三口「ミツクチ」、三井「ミツイ」、三里「ミツサト」のように「みつ」と読む場合もあり、ごく僅かであるが、三水「サミズ」のように「さ」と読む場合もある。

四(シ・よ・よつ・よつつ・よん)  
 奈良、京都、大阪では「四条」と書いて「シジョウ」とよむ。順番を示す四を「シ」と音読する。しかし北海道では四条「ヨシジョウ」とよみ、東京では四番町「ヨンバンチヨウ」と訓読になる。地名の先進地では四を「し」と読むことにこだわらなかつたが、後世になつて「し」は「死」に通じるとしてきわめられたのであろう。これとは別に「四」を単に音の「シ」の当て字にした地名も多い。例えば四万(シマ)温泉や四万十川(シマントガわ)などである。

訓の「よん」に代わつて「よ」と読む四郷(ヨウ・シゴウ)という地名もある。また四日市(ヨツカイチ)・四街道(ヨツカイドウ)などは、「よつ」と読む。さらに長野県の四阿山(アズマヤサン)のような熟字訓もあることを知っておきたい。四阿(あずまや)とは四方へ軒をふきおろした寄棟の家屋のことである。  
 五(ゴ・いつ・いつつ・い)  
 五を「ご」と読む自治体名には奈良県の五条(ゴジョウ)市、秋田県の五条目(ゴジョウノメ)町などがある。五の日に市の開かれる所は五日市

(イツカイチ)と読む。  
 五の訓「い」で読む地名の例は五郷(イサト)、五良野(イラノ)、五浦(イズラ)などがある。熟字訓で五月田(サツキダ)、五月雨(サミダレ)などよむ地名もあることを知っておきたい。

六(ロク・ロツ・リク・む・むつ・むい)  
 六を「ろく・ろつ」と音読する地名は六戸(ロクノヘ)、六ヶ所(ロツカシヨ)などがあるが、そう多くない。東京の文京区にある六義園「リクギエン」漢音のリクと読む。訓読では六日町を「ムイカマチ」・六倉町「ムツクラチよう」などと読む例は常識で判断できるが、単に「む」と読む場合が難しい。六手を「ムテ」、六田を「ムダ」六科を「ムジナ」と読む例などがある。

七(シチ・シツ・ヒチ・なな・なぬ・なの)  
 七の付く地名は音読も訓読も三通りの読み方がある事を知っておきたい。  
 音では七戸(シチノヘ)のように「シチ」と読む場合が多いが、七宝(シツポウ)、七見(シチミ)などのように「しつ・ひち」と読む場合もある事を知っておきたい。

訓でも石川県の七尾(ナナオ)市のように「なな」と読む場合はいいが、同じ七日市でも富岡市の七日市(ナノカイチ)、舞鶴市の七日市(ナヌカイチ)、加賀市の七日市(ナンカイチ)、のように「なの」「なぬ」の訓読と「なん」と変化する訓がある。  
 また「七原」の地名に「シチハラ」と「シツワラ」、「七番長」の地名には「シチバンチョウ」と「ナナバンチョウ」の各二通りの読み方がある事に気がついた。

(以下、次号に続く)



文芸

短歌

会員 土屋 敦保

天高く 曙杉の梢より  
 高鳴きをする 百舌の声さく  
 山門に 花散る中の行元寺  
 波の伊八の 彫刻残る  
 少しずつ 夜明けが遅くなりたると  
 朝の食卓 灯りをともす

会員 斉藤 睦生

久方に 故郷帰り 五右衛門風呂  
 おはぐろ洗いし 祖母思い出す  
 芋の葉の 朝つゆ集め 墨すれば  
 手作り短ざく 一句書き上げ

ハネムーン 終わりにて帰る 子の機影  
 利根の向こうに 大きく旋回し

五月晴れ 宝物展示の 寺社巡り  
 若僧ガイド リンとひびきて

俳句

会員 斉藤 睦生

病み臥せば 笹鳴き一声 未完成  
 酒で飲む 薬に風邪は 立ち去らず  
 曲家に 外に流るる 杜氏のうた

郷土史研究会の紹介

私たちが現在住んでいる山武市という土地は大化の改新以降は「山辺郡」「武射郡」と呼ばれていましたが、それ以前にも日常的な人の営みがありました。その証拠に古墳がいたるところにあたり、日本武尊伝説が残されたりしています。また、大化の改新以降では、武射郡衙や真行寺廃寺或いは将門伝説、頼朝伝説など様々な歴史が刻まれてきました。そして、近世になると徳川將軍の鷹狩り場所や旗本鬼の平蔵の料地になるなどしました。

歴史の評価に「もしも」が許されるとしたら、この地はこの日本史の表舞台となっていたかもしれない興味津々なパワースポットになっていたのかもしれないのです。このような郷土の歴史を地元の郷土史愛好家として発掘し研究し発表することを目的とした「郷土史研究会」が活動しており、郷土史に興味のある方の参加をお待ちしております。

連絡先

代表 金田 弘之 8215030  
 幹事 戸村 茂昭 8218362

広報編集委員会委員紹介

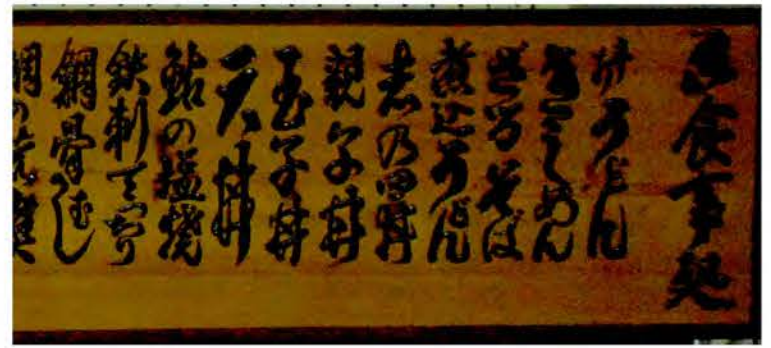
すでにシルバー「さんむ」第二号でお知らせしてありますが、五月の総会で新理事となられた次の二名が、広報編集委員に就任しましたので紹介します。

竹内 光興 松尾  
 秋吉 勝則 山武

また、担当職員は高林千代美 布施美恵子です。  
 ※広報編集委員から原稿等を会員の皆さんにお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。



第五回  
 会員作品展示会  
 の主な作品



編集後記

新年を迎え、皆様いかがお過ごしですか。昨年は公益法人の移行や事務所の統合・本所の引っ越しで、アツという間の一年でした。このシルバー「さんむ」も公益法人として新たに一号からスタートし、第三号の『新春号』を発行することができ、大変うれしく思います。

皆さんは、今年の目標はありますか？私には、「家族が元気で仲良く過ごす！」です。簡単なようで難しい。お互いに思いやりをもって優しい気持ちで過ごしたいですね。そうすれば、笑顔いっぱいの日々になるかな？

会員の皆様も、今までの知識や経験を生かし、地域の人々のふれあいを深め、会員同士仲良く、安全第一・健康第一で頑張ってください。

(広報担当 高林)

